

東京都作業療法士会ニュース

編集：東京都作業療法士会広報部

発行：会長 田中勇次郎

衣鉢相伝



この度、教育部担当理事を拝命しました、首都医校の菊池大典と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。評価実習にてご指導頂いた先生からのお声かけがきっかけで、教育部の活動へ携わるようになり、この4月から18年目となります。自分には縁がないと思っていた理事を引き継がせて頂いたことは、大変光栄に存じます。そして、恐れ多くも2025年最初の巻頭言の機会を頂戴することとなりました。

私は僧侶の父と、作業療法士の母の下に生まれ、幸運にも両親の跡を継ぐ機会に恵まれ、僧侶であり、作業療法士となりました。図らずも妻は神職であり、奈良時代から始まったとされる神仏習合を体現する家庭をもちました。本稿執筆時は2024年11月末ですが、果たして2025年の箱根駅伝、母校の活躍や如何に。妻の母校も躍進目覚ましく、結果が楽しみです。

私が今日まで作業療法士を続けることができたことは、恩師、母親、そして職場の諸先輩から様々な教えを授かり、導いて頂いたお陰です。このことを仏教の言葉で表したものが、表題の衣鉢相伝となります。2022年7月の巻頭言において、私の母は“未来へ繋ぐ”という文言を用いました。言わずもがな、私自身もその繋ぎ手の一端であり、養成校の教員となった今、その責任の重さを自戒としています。

仏教における衣鉢相伝は、例えば鎌倉時代に定められた作法が、今日の修行道場においても、全く同じ方法が用いられているように、教えを正確に再現することにあります。しかし、作業療法の分野においては、その基盤となる学問は日進月歩であり、具体的な方法論は社会、文化的背景に即したものに変化を伴う相伝になると言えます。しかしながら、私自身は教育の分野へ従事するに際して、臨床には一旦の区切りをつけました。最新の知見がどのように臨床現場で活用されているのかについては、実習指導者会議や実習地訪問の際にご教示頂きながら、学生指導に努めております。

世代を繋いでいくということは、育ってきた時代の違いという世代間の溝を埋める工夫が必要であることを、学生指導や子育てを通じて日々痛感しています。人を見て法を説く、対機説法という言葉が仏教にはあります。このことは「聞き損ないは、言い手の粗相」という諺も示すように、教える側の責任を示唆していると私は捉えています。教育担当の職責を果たすことができるよう、謙虚な姿勢で臨みます。ご指導鞭撻のほど、宜しく願い申し上げます。

学校法人日本教育財団
首都医校
菊池 大典

CONTENTS

- ◆衣鉢相伝…①
- ◆第8回Asia Pacific Occupational Therapy Congress/第58回日本作業療法学会参加報告…②
- ◆ファッションのインクルーシブデザインシンポジウム参加報告…③
- ◆第21回東京都作業療法学会 演題募集のお知らせ…④
- ◆事業部活動報告…④
- ◆東京都作業療法士会 子ども委員会の活動報告…⑤
- ◆地域づくり2025に向けて…⑤
- ◆認知症の取り組みに関するアンケート調査の実施…⑥
- ◆認知症にやさしい本の紹介 VOL.48…⑥
- ◆保険部 Letter「合理的配慮」の提供における義務化について…⑦
- ◆10月研修「福祉用具・住宅改修の基本と実際」を受講して…⑦
- ◆改造車の運転体験と指導方法を学ぶ研修会…⑧
- ◆就労支援委員会活動報告…⑧
- ◆2024年度災害時を想定したシミュレーション訓練の実施報告…⑨
- ◆ブロック活動報告…⑩
- ◆祝、OT完成！…⑫
- ◆編集後記…⑫

第8回Asia Pacific Occupational Therapy Congress / 第58回日本作業療法学会参加報告

帝京平成大学 健康メディカル学部 作業療法学科 中本 久之

去る11月6日から11月10日にかけて第8回Asia Pacific Occupational Therapy Congress (APOTC) と第58回日本作業療法学会に参加をさせて頂きました。国内で開催される作業療法の国際学会としては2014年に開催された世界作業療法学会以来、実に10年ぶりの学会となりました。佐藤剛記念講演にて前日本作業療法士協会会長の中村春基先生が“贈り物”と表現されたように、札幌では例年よりも早く積雪があり、会場までの道のりに苦労しつつも、紅葉と雪のコントラストを楽しむことができました。

今回、同時開催の両学会に参加することで、世界の作業療法の流れと、日本の制度や情勢に溶け込む国内の作業療法の両面に改めて触れる機会となりました。両学会に共通していた点としては、Evidence構築に向けた動きであり、事例報告もデザインを整えて成果を報告している発表が目立ちました。日本作業療法学会でも演題の査読基準が示されていることで、水準が高まっているように感じます。これから学会発表を考えている方は、ぜひ査読ポイントを事前に確認し、基本的な作法を押さえているかを検証することで自ずと一定水準以上の発表ができるのではないかと思います。

APOTCの発表では、作業科学をベースとした発表が多いように感じられました。特に研究の背景や意義において、「Occupational Injustice」「Occupational Deprivation」という言葉を耳にすることが多くありました。作業科学の視点は、障害の有無に限らず、作業をすることの権利に着目していることから、地域実践においては一段と強く作業療法を支えてくれるメタ理論となります。一方で、日本の医療・介護保険制度では、その成果が入院日数やFIM利得、運動機能に焦点が当たりやすい傾向にあります。そのため、地域実践が盛んな他国の取り組みをそのまま日本で実践しようとしても、他職種との連携やクライアントからの受け入れにおいて摩擦が生じる可能性も考えられます。日本の作業療法が医療の中で発展してきた歴史からも、医学的な効果を示しつつ、作業療法の独自性を表現する日本独自の成果報告が求められていくと考えられます。

国内の学会における発表でも医療現場以外の発表が増えていると感じました。発達領域、司法領域、企業における就労支援など活躍の場が広がっています。比較的新しい領域は、どのようにチャレンジされているのか学会に参加すると直接お話を伺える貴重な機会にもなります。来年は香川県高松市にて第59回日本作業療法学会が開催されます。対面だからこその出会い、そしてそこからの広がりはこのからの研究の芽を生み、発展する上でも不可欠だと思います。

最後にAPOTCのあるセッションでのフロアとの質疑に触れます。「なぜそのテーマで研究を続けているのか？」というフロアからの質問に対し、「それを説明するのはとても難しい。なぜなら、14,5歳の時に抱いたある思いが原点だから」と。研究を形にしていくなかで作業は時に困難なこともあるかもしれませんが、しかし、眼前のクライアントのため、そして作業療法の発展のため、前に進み続けようと力を頂いたメッセージでした。



会場入口にて同僚の宇佐美好洋先生と。世界地図が描かれた入り口のボードには参加者のサインやメッセージが所狭しと書かれていました。

ファッションのインクルーシブデザインシンポジウム参加報告

彰栄リハビリテーション専門学校 野村 哲朗

皆さんは毎日、「おしゃれ」していますか？

11月9日にファッションのインクルーシブデザイン実行委員会「障害等による機能低下、体型変化等に配慮した衣服の開発と普及のための基盤整備」研究班主催のシンポジウムに参加しました。この企画は公開イベントとしては1回目、企画メンバーは医療従事者、衣服関連の教育者、特別支援教育や医療専門職の教育者、障害者支援に関する研究者など、多岐に渡る領域から構成されています。

シンポジウムの趣旨を要約させて頂くと「誰でもおしゃれを楽しめるために情報を共有しよう！」ということです。何を共有するのかというと、好きな洋服を着るための支援がどのように展開されているか、普及させる手段、webの活用法などです。

司会の徳永千尋先生より「ファッションの力で多様な社会を元気づける」と、温かいお言葉から始まりました。本編は第1部ファッションを通じたインクルーシブ社会の実現のために～新しい価値創出の可能性を探る～、第2部誰でもおしゃれを（取り組みの例）で構成されており、当事者・家族、企業、研究者それぞれの取り組みの紹介がありました。

登壇者は10名に及び、装いを楽しむ事へのニーズが高い事がわかりました。ファッションは社会参加のマナーであり、自己肯定感や尊厳を高める効果があると、どなたも仰っていました。「こんなこと」と思う小さな工夫でも気持ちが変わるとも紹介されていました。

色々な障害を助ける為のアプリやグッズ、実際使用しているアイテムの紹介や困り事の発表があり、どなたも工夫をされていました。当事者のニーズに答えている企業からは素晴らしいお直しの技術、ビジネスモデル、社会活動の紹介があり、当事者こそが一番のデザイナーという言葉が印象的で、誰もがおしゃれを自由に楽しめる世界がやって来る予感がしてわくわくしました。一方で、「着たい服が着れない。」「お直しの料金が気になる。」「相談方法がわからない。」などの訴えが多く、それらを結ぶ機能をもつものが無く、人材も少ない。今後は連携が重要になり、課題として挙げられました。様々な方のお話を聞いたときに、作業療法が潜在的なニーズをサーベイし満足度の向上や参加に繋がられる医療専門職として役割があるはずだと感じました。登壇された企業様の情報をいくつか紹介させていただきます。ご興味を持って下さった方、身近におしゃれを楽しみたいのに課題を抱えていらっしゃる方がいたら、是非アクセスしてみてください。

①お直し 株式会社SACHI

アトリエ・クチュリエール東急プラザ渋谷店（他店舗あり）

②服のお直しサービス「キヤスク」

③インクルーシブファッション「SOLIT!」

④感覚過敏の課題解決アパレルブランド



②



③



④

第21回東京都作業療法学会 演題募集のお知らせ

第21回東京都作業療法学会を2025年7月13日（日）東京都立大学キャンパスにて開催いたします。このたび、演題募集が開始となりましたのでお知らせします。

【応募資格】 日本作業療法士協会の正会員及び賛助会員並びに都道府県作業療法士会の会員。（発表者は受付期間になりましたら事前参加登録を行ってください。）

【応募受付期間】 2025年1月14日（火）12時～2025年3月21日（金）23時
 応募受付期間および締め切り時間の厳守をお願いします。締め切りの直前はアクセスが集中し、手続きが完了できない場合があります。余裕をもって、登録を行ってください。

【応募方法】 学会ホームページの「第21回東京都作業療法学会演題登録システム」にアクセスし、案内に従ってユーザー登録および演題登録を行ってください。
 応募に関するお問い合わせ、メールにてお願いします。
 （学会担当問い合わせ先：tokyo.ot.toubu.touhoku@gmail.com）

詳細については、必ず学会ホームページの案内、および募集要項をご確認ください。
 これからも都士会ニュース、HP、SNSなどで順次発信してまいります。
 学会に関する案内に是非ご注目下さい。
 演題に関しまして沢山のご応募をお待ちしております！



東京都作業療法学会
ホームページ

事業部活動報告

事業部 岡田 泰裕

2024年12月8日（日）にFINEDAY浜松町で事業部主催交流会を開催させて頂きました。

今回の交流会は、日頃より東京都作業療法士会の部員や委員として活躍している皆様と横の繋がりの場として企画させて頂きました。当日は16名の部員・委員の皆様にお集まり頂きました。参加部署では、地域づくり共創部・教育部・事業部・広報部・事務局・子ども委員会・区中央部・区南部・島しょ部ブロックと多くの部・委員の方にお集まり頂きました。

今回の交流では、自己紹介や部紹介をして頂きゲームを通して参加者同士が交流を行い活発な意見交換の場となりました。一番の目玉企画としまして、地域づくり共創部の金澤均部長に協力頂き、オリジナルのハーフラーメン作りを行いました。自分なりのラーメン作りという作業を通して一体感が生まれ、部や委員会の垣根を越える事が出来たと思います。

今回の交流会を通して、東京都作業療法士会の部・委員会の皆様とより密な関係を築き、今後会員の皆様とも交流する場が設けられれば良いと考えました。事業部では、継続して作業療法の啓蒙活動を行っていきたいと思います。このような貴重な経験をさせて頂き感謝申し上げます。



東京都作業療法士会 子ども委員会の活動報告

子ども委員会担当理事 伊藤 祐子

東京都作業療法士会子ども委員会では、2023年度も子どもの発達支援における作業療法の普及と啓発を目的に、多岐にわたる活動を展開してきました。

都士会学会では、公募企画「今、子どもたちに何が起きているのか。発達OTが臨床で感じていること」を実施しました。この企画では、学校、医療、療育の現場での課題や取り組みを参加者と共有し、専門職同士の交流を深めました。また、子どものための福祉機器展や日本小児リハビリテーション医学会でのブース出展を通じ、発達系作業療法の重要性や支援の継続的な普及啓発の必要性を改めて実感しました。

政策面では、今後に向けた新しい動きとして、子ども家庭庁が発表した5歳児健診のフォローアップ体制のイメージにおいて、作業療法士が関与する専門職として明記されたことが注目されます。また、通常の小・中学校からの作業療法士派遣依頼が増加しており、教育現場での作業療法士の役割拡大が期待されています。これらの変化は、子どもたちの健やかな成長を支える体制の充実を後押しするものです。

さらに、12月には学校における作業療法に関する研修会を開催し、現場で活躍できる質の高い作業療法人材の育成に引き続き取り組みました。今年度の活動を踏まえ、今後も小児医療、療育、児童発達支援、放課後等デイサービス、特別支援教育や5歳児健診を含む地域支援など多様な作業療法の現場で子どもたちの未来を支える会員の皆さんに貢献できる活動を継続していきます。

地域づくり2025に向けて

地域づくり共創部部長 金澤 均

地域づくり共創部では2023年より、「東京都内全域で地域における作業療法実践を推進する～作業療法士が自信と誇りをもって地域での作業療法を展開できる～」という目標のもと、地域づくり人材育成事業をスタートいたしました。それと同時に東京都内全域での作業療法実践を支援すべく、「東京都地域支援体制構築事業」を進めて参りました。

2年間の実施を経て、地域づくり人材育成研修の受講者数は延べ332名となり、地域づくりサポーター245名、地域づくりパートナー57名、地域づくり推進リーダー30名となりました。

また、2024年度三士会地域リハビリテーション専門人材育成研修とアドバンス研修も実施し、地域づくり推進リーダーに研修運営をサポートいただきました。また東京新聞ヘルスケアメイツ140周年イベントにおいて、当中谷副部長が「健康長寿につながる活動と社会参加」と題して、パネルディスカッションで社会参加の重要性について発表いたしました。

目指す東京都全域での作業療法支援体制の構築までは、まだまだ道半ばではございますが、少しずつ前進し続けたいと考えております。2025年も会員の皆様の地域での活躍を、少しでもサポート出来るよう邁進して参ります！

地域支援に資する 作業療法士育成ロードマップ

東京都それぞれの地域で人々の活動・参加を支援し、
地域共生社会の構築に寄与する作業療法士を目指す

～専らに活躍を果した人の90年代を目標に、人々の活動・参加の促進、人々の健康・生活の向上を目指す～

地域づくり推進リーダー

実践研修：①地域ケア会議で適切な助言ができる。
②地域福祉サービスにおけるアセスメント
および評価の能力が出来る。
③高い確立と向上に向けた計画を立案できる。

地域づくりパートナー

実践基礎研修：①多職種と連携する技術について理解している。
②専門的な必要な医学的知識について理解している。
③リハビリテーションシステムについて理解している。
④地域リハビリテーションの実態を理解している。

地域づくりサポーター

基礎研修：①最新分野における、社会福祉制度について理解している。
②基礎的な必要知識について理解している。
③地域リハビリテーションについて理解している。
④地域で働く経験について理解している。

免除規定を設け
実践者はサポーター・
パートナーとして認定

認知症の取り組みに関するアンケート調査の実施

認知症の人と家族の生活支援委員会 但野 修理

本年度、当委員会では都士会員（OT）を対象に認知症に関する事業への取り組み、認知症の方を支援するうえでの技術・制度面・他職種連携での課題についてアンケート調査を実施いたしました。その結果の一部をご紹介します。

結果では「認知症予防事業」「初期集中支援チーム事業」について認知されている方が多かったです。「伴走型支援」についてはあまり認知されていませんでした。また、ほとんどの回答者は認知症に関連する事業に興味関心があるが、実際に携わっている方は少なかったです。課題では「認知症の方にどのようなリハビリテーションができるか本人やご家族への説明」「BPSDの改善と中核症状の進行を防いだりするための作業を用いた介入」など技術面の課題、「サロンやカフェでの金銭的支援が少ない」「若年性認知症の方のための社会資源が少ない」「医療と介護また医療と地域が関わるような制度が少ない」など制度面の課題が挙げられていました。

当委員会への要望も聴取しており、「当事者の声を聞く機会を作る」「担当ケースの悩みを相談しアドバイスをもらう会を開く」「認知症に対する地域資源と地域支援に関わっている作業療法士の取り組みの紹介」などがありました。

今回の結果を参考に、研修会、イベントの企画と情報の発信をしていきたいと考えています。今回、アンケートにご回答いただいた皆様には感謝を申し上げます。

認知症にやさしい本の紹介 VOL.48

川崎市立宮前図書館 館長 舟田 彰

『おとうさんは103さい』

信友直子／作・吉田尚令／絵

信友直子監督の映画『ほけますから、よろしくお願ひします。』の原点となった実話を基にした絵本である。103歳になった父親への深い愛情と、家族の絆を描き出した作品である。戦争を経験し、妻との出会い、老い、そして現在の一人暮らしまで、父親の人生が温かく綴られている。

普遍的なテーマと素朴なイラストがとてもいい。老い、家族、愛情といった、誰しもが共感できるテーマについて、吉田尚令氏の優しいタッチのイラストとともに描き、作者の父親に対する深い敬意と愛情が言葉の一つ一つに現れ、その温かさに触れることができた。読後感としては、家族の大切さ、そして生命の尊さを改めて感じる事ができた。103歳という年齢を迎えながらも、前向きに生きる父親の姿に、生きる喜びや希望が感じられた。家族との時間を大切にしたい、そう感じさせてくれる一冊である。

絵本であるが、内容が少し大人向けなので、小さな子どもには難しい部分もあるかもしれないように感じ、大人でも十分伝わってくることが多い。老いや死といった重いテーマも扱っているため、読後感に少し重みを感じる方もいるかもしれないように感じる。そして、単なる絵本にとどまらず、読者に多くのことを考えさせてくれる作品である。家族愛の深さ、そして生きる素晴らしさを再認識できた。「これはおかあさんのおかげなんよ」というお父さんの一言がとても心に沁みだ。

保険部 Letter

「合理的配慮」の提供における義務化について

保険部 住田 多恵子

平成28年の「障害者差別解消法」の施行により、行政機関や公共施設などでの障害のある人への「合理的配慮」を提供する事が義務化されました。その後、障害者差別解消法の一部が改正され、令和6年4月1日より民間事業者にも合理的配慮が法的に義務化されました。

障害のない人は簡単に利用できても、障害のある人にとっては利用が難しく活動などが制限されてしまう場合があります。その際、活動を制限しているバリアを取り除くための「合理的配慮」の提供が必要になります。

具体的には、①行政機関等と事業者が②その事務・事業を行うにあたり③個々の場面で、障害者から「社会的なバリアを取り除いてほしい」旨の意思表示があった場合に④その実施に伴う負担が過重でないときに⑤社会的なバリアを取り除くために必要かつ合理的な配慮を講ずること、とされます。

「合理的配慮」を提供する際の留意点として、以下の3つを満たす必要があります。

- ①必要とされる範囲で本来の業務に付随するものに限られること
- ②障害のない人との比較において同等の機会の提供を受けるためのものであること
- ③事務・事業の目的・内容・機能の本質的な変更には及ばないこと

また、合理的配慮の提供については伴う負担が過重（事務・事業への影響、実現可能性の程度、費用・負担の程度、事務・事業規模、財政・財務状況）でないことも必要です。

合理的配慮の提供にあたっては、必要な対応について、事業者と障害のある人との間で対話を重ね、ともに解決策を検討する「建設的対話」が重要です。

引用：政府広報オンライン

<https://www.gov-online.go.jp/article/202402/entry-5611.html#secondSection>

内閣府リーフレット

https://www8.cao.go.jp/shougai/suishin/pdf/gouriteki_hairyo2/print.pdf

10月研修「福祉用具・住宅改修の基本と実際」を受講して

柳原リハビリテーション病院 セラピスト課 高山 泉

福祉用具や住宅改修の基礎的な知識を学びながら、実際に用具に触れて体験できた点が良かったです。また、今まで、住宅改修は、患者様の退院前に必要な検討事項の一つと考えていました。しかし、患者様のご自宅の環境調整を想定することは、初回の目標設定や治療プログラム選定の際にも必要なことに気づきました。今後はこの知識を患者様への介入の際にも活用していきたいと考えています。



【福祉用具研修のお知らせ】今年度2回目の研修会として、『シーン別研修の居室編 第2弾』ベッド周りの介護負担軽減を目的としたスライディングシートの活用術とリフトの体験・活用術（入門編）を企画しています。詳細は、下記のURLより、ご確認をお願いします。

<https://tokyo-ot.com/lecture/28599.html>



改造車の運転体験と指導方法を学ぶ研修会

自動車運転と移動支援対策委員会 河原 龍平

今回、株式会社コヤマドライビングスクール二子玉川校にご協力いただき改造車の運転体験と指導方法を学ぶ研修会を実施しました。実際に教習所内で改造車の運転を体験し、改造車の操作方法や注意点を教習指導員の方からアドバイス頂く貴重な機会になりました。

当日の体験内容としては、右片麻痺時に適応となるような左アクセル車、脊髄損傷・対麻痺の方に適応となるような手動アクセル、ブレーキ車やニコ・ドライブが開発したハンドルコントロールといった手動運転装置を使用した運転について、教官付き添いのもと教習所内の運転体験をさせて頂きました。私自身、対象者へ車両改造について情報提供するための知識は持っていましたが、実際に改造車を運転する機会はありませんでした。特に両下肢を使用しない手動装置を使用した運転について



は、アクセルやブレーキ、ハンドル、ウインカー操作を両手で全て行わなければならない、安全に車両を動かすことで精一杯でした。今回は教習所内の周回コースのみの体験でしたが、一般車両も走っている路上に出るためには操作の習熟が必須であり、実用的な運転技能の獲得にはかなりの練習が必要であると感じました。車両改造を行った方については車両操作の習熟が重要とされていますが、障害により運転様式が変わる対象者には、指定自動車教習所と連携して、運転操作練習を推奨した方が良いと感じました。

就労支援委員会活動報告

就労支援委員会 谷本 佳代子

就労支援委員会主催研修会のお知らせ

今年度も、就労支援委員会では研修会を開催いたします。今年度のテーマは「地域共生社会って何だろう？～働くを通して考える～」。NPO法人いねいぶる 宮崎宏興さんをお招きし、兵庫県たつの市での地域共生社会の取り組みをご紹介します。また、東京での障害者雇用の現状や課題について確認し、日々の実践を振り返りながら、地域共生社会について理解を深めていきます。

今年度は、5年ぶりに対面での開催となります！日頃、就労支援に関わっているOTの皆さん、そうでない方もぜひご参加ください。会場でお会いしましょう！！

日 時：2025年2月16日（日）13：00～16：00 ※12：30開場

内 容：第1部「ともに働く文化・街づくりについて—兵庫県たつの市での取り組み—」

第2部 パネルディスカッション「東京都における障害者雇用と就労支援の現状と課題」

第3部 グループディスカッション「日々の実践を振り返り、繋がり合おう」

講 師：NPO法人 いねいぶる 理事長 宮崎宏興氏

会 場：日本リハビリテーション専門学校

参加費：東京都作業療法士会 会員 1,000円 / 非会員 2,000円 / 学生 無料

参加お申込み：URLもしくはQRコードから

<https://x.gd/VwgIX>



2024年度災害時を想定したシミュレーション訓練の実施報告

都士会災害対策担当 保険部 永吉 隆生

2024年度は9月25日から10月末においてシミュレーション訓練が行われ、都士会では以下の方法で会員の安否確認を致しました。

- ①都士会Faxの配信（東京都内のOTが在籍している施設・病院へ都士会からFaxを送信）
- ②ブロックと連携した連絡（各ブロックの災害対策の担当者を中心にブロック内で連絡）
- ③災害時連絡用メールの配信（災害時連絡用メールに登録している会員へ個別に連絡）
- ④都士会LINEの配信（登録されている会員へLINEで連絡）

訓練結果（カッコ内は今年度%/昨年度%の結果）

<安否が確認できた会員数> 1,091名/2,157名（50.6%/58.3%）

<ブロック別実施率>

区中央部区南部：134名/293名（45.7%/40.1%）	区西南部区西部：163名/359名（45.4%/41.6%）
区西北部：130名/318名（40.9%/56.2%）	区東部区東北部：243名/386名（63.0%/66.2%）
南多摩西多摩：256名/447名（57.3%/61.2%）	北多摩：165名/354名（46.6%/53.0%）

都内で大規模災害が発生した際のリハ支援に関して

都内で大規模災害が発災した際（震度5強以上や豪雨災害などで避難所がいくつも開設されて災害の影響が長期間続くことが想定される場合）に、会員の安否・被災状況の確認を都士会で実施します。

その後、安否・被災状況の情報はOT協会と日本災害リハ支援協会（JRAT：OT協会やPT協会の他にリハ医学会や技師装具協会などが構成団体）と共有します。

それにより、以下のように物的支援と人的支援を実施することになります。

<物的支援>

避難所に対して、段ボールベッドや簡易手すりの設置、杖の提供など、環境や要支援者を考慮した支援をします。病院や施設に対しても必要に応じて杖や歩行器などの物品の提供などをします。

<人的支援>

被災状況によって、病院や施設に勤務しているOTが通常と同じように出勤できないことも想定されます。しかし、病院や施設に入院・入所中の方は、長期間リハを実施できないと廃用が進んでしまいます。そのため、病院や施設の状況を把握させていただきOT協会やJRATに登録しているリハ支援ができる人材（OTだけでなくPTやSTも含めたボランティアスタッフ）を派遣して病院や施設でのリハ提供ができるようにしていきます。

また、避難所では長期間の避難所生活で生活が不活発になりリハ支援が必要な方に対してもリハ職を派遣する必要がありますが、被災直後に近隣の病院・施設に勤務しているOTが対応することは難しいことが多いです。それらに対しても登録されている人材を派遣してリハ支援を実施していきます。

これらの物的・人的支援がスムーズに進むように、年に1回、全国の都道府県OT士会が一斉に災害発生を想定してそれぞれの士会員の安否や被災状況を確認する災害時シミュレーション訓練を実施しています。

今回のシミュレーション訓練にご協力いただいた皆様、ありがとうございました。引き続き都士会の災害対策に関しましてご協力の程、宜しくお願い致します。

ご連絡・お問い合わせ先：tokyootsaigaitaisaku@gmail.com（災害対策担当：松岡・永吉）

ブロック活動報告

区東部・東北部ブロック

白石 恭子

震災による心痛ましい年明けから一年が経ちました。本年は皆様にとって心穏やかに過ごせる日々となるよう願っています。昨年度当ブロックでは、研修会の企画・運営、日本リハビリテーション看護学術総会への参加、第21回東京都作業療法学会実行委員会の立ち上げ等を行いました。学会運営に向けた決起会には、14名の方が参加され賑やかな時間となりました。【Now or Never - 今できることを - 】の学会テーマに即したように、日常業務に追われながらも個々ができることを協力し合い、精力的に活動しております。そして、早速ですが2月に研修会を実施いたします。〈回復期から生活期への連携〉をテーマに、回復期から対象者を送り出す上での疑問や悩み、生活期で受け入れる上で感じている点や気づき等を各分野のスタッフからお話し、その後参加者を交えたグループワークを予定しております。詳細は、都士会HPやFAXにて随時アナウンスしていきます。是非ご参加ください！

ブロック連絡先：tokyo.ot.toubu.touhoku@gmail.com

西部・西南部ブロック

扇 浩幸

皆様、新年あけましておめでとうございます。

本年も西部・西南部ブロックをどうぞよろしく願いいたします。今年は1月25日に認知症アップデート研修が開催されますのでぜひご参加ください。また、西部西南部では各区の横のつながりをつくる活動にも少しずつ力を入れており、2月には新宿で新宿OT会を開催予定です。西部西南部ブロックは人数は少ないですが、一人ひとりがとても素敵な方々です。横のつながりを作りたい、他分野に興味がある方はぜひご連絡ください。
seibuseinanbu.ot@gmail.com

区西北部ブロック

清水 隆志

新春のご挨拶を申し上げます。皆さま、健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

旧年のブロック活動は東京都作業療法学会一色になってしまいましたが、本年は皆さまが興味を持てる研修を企画し、ブロック内の発展の一助になれるように頑張りたいと思っております。直近では2月頃に生涯教育制度についての研修を予定しておりますので、心よりご参加をお待ちしております。

最後にブロック活動にご興味がある方を募集しています。活動を通じて他施設・領域のOTと交流もあり、良い経験になるかと思えます。ご興味のある方は区西北部ブロックまでお問い合わせください。

連絡先：tokyo.ot.seihoku.block@gmail.com

区中央部・南部・島しょブロック**阿部 幸太**

区中央・南部・島しょブロックでは、12月にスプリントのハンズオンセミナーを開催しました。参加者も運営側も充実した時間になったと思います。現在は、2月に中央南部ブロック大交流会（仮）を開催するために、企画内容を検討しております。詳細が決まり次第、順次お知らせ致しますので、皆様のご参加を心よりお待ちしております。加えて、区中央・南部・島しょブロックでは一緒に活動していただける方を随時募集しております。ブロック活動に興味のある方、他施設のOTと顔の見える関係を築きたい方など、ぜひ下記までご連絡ください。一緒に東京の作業療法を盛り上げていきましょう！

区中央部・南部・島しょブロック連絡先：ku.chuou.nanbu.ot@gmail.com

北多摩ブロック**佐々木 康友**

11月22日に、ツドイノバ「OTの引き出しを増やそう ～アクティビティの紹介～」をZOOMにて開催致しました。全19名の参加者が、それぞれの立場からアクティビティについての様々な経験を共有するとともに、認知症で寝たきりの対象者にはどのようなアクティビティが提供できるのか、アイデアを出しあいました。今回改めて私が感じたのは、対象者へ意味あるアクティビティを提供するために、「何をするか？」だけではなく、「ひと」と「環境」にも充分配慮することが大事だということです。短い時間ではありましたが、各参加者が明日からの臨床のヒントや気づきの機会となったのではないのでしょうか。北多摩ブロックでは私たちと一緒にブロック活動を盛り上げてくれる方を募集しています（ot.kitatama@gmail.com）。またInstagramでは活動報告やブロック委員の自己紹介など随時発信していますので、是非のぞきにきてください！*ブロックメンバーも引き続き募集中です。ブロック活動に興味のある方は、気兼ねなくご連絡ください。

ot.kitatama@gmail.com

西多摩・南多摩ブロック**上野、平賀**

皆様、新年あけましておめでとうございます。

本年も西多摩・南多摩ブロックをどうぞよろしく願いいたします。

昨年10月25日に開催したオリジナル研修会「はじめての自動車運転支援～医療機関での支援の在り方～」には、62名もの方にご参加いただき、大盛況のうちに終えることができました。参加者の皆様からは、「新しい視点を学べた」「実践に活かせる内容だった」などの声をいただき、大変嬉しく思っております。この成功を励みに、今年も多様なテーマの研修や企画を通じて、皆様に役立つ学びを提供してまいります。また、2月7日には、今年度初の対面形式によるブロック会議が予定されています。これまでオンライン形式が中心でしたが、直接顔を合わせることで、さらに団結を深め、アイデアを共有しながら、皆様により良い活動をお届けできるよう準備を進めております。

新年ということで、私たちは、それぞれ「フルマラソンに挑戦する」と「着物を着て鎌倉に行く」という目標を掲げています。新しいことに挑戦する中で得られる気づきや学びは大きいと感じています。皆様もぜひ、この一年で新たな挑戦に取り組んでみてはいかがでしょうか？ブロック活動においても、チャレンジ精神を大切にしながら成長を目指していきたいと思っております。本年も西多摩・南多摩ブロックでは、皆様にとって有意義な学びと交流の場を提供してまいります。活動にご興味のある方は、ぜひお気軽にご参加ください。どうぞよろしく願いいたします。

ブロックメンバー大募集！ご興味ある方はご連絡下さい⇒swtamaot@gmail.com

各市区町村の所属ブロックに関しては都士会ホームページでご確認ください。

祝、OTO完成！

広報部理事 水口 寛子

皆様、今月号に同封しました広報誌OTOはもう読んで頂けましたでしょうか。作業療法の魅力を利用者さんだけでなく、これから職業選択を行う学生さんや転職を考えている方、そして作業療法士自身が改めて作業療法っていいな～と再確認して頂けることを願って作成しました。

作業療法と椅子？という一見不思議な組み合わせですが、読んで納得の内容になっていると思います。今回も広報部として自慢の一冊となりました。ぜひ周りの方にも読んで頂くようお勧めください。

編集後記

新年明けましておめでとうございます

新しい年の始まりは清々しく、新しい事にチャレンジしたくなります。皆さんは今年の目標を立てましたか？ 皆さんにとって良い1年でありますように！

今号のAPOTCとOT学会の報告ではアジア太平洋地域の作業療法の動向と日本の作業療法が国内で現在おかれている状況を知ることが出来ました。また、同封のOTOでは領域ごとに椅子にまつわる介入やエピソードが紹介されております。是非、ご覧ください。

都士会ニュースは皆様に様々な情報を発信しています。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

広報部部長 野村 哲郎

※ニュースに掲載されている写真は、ご本人の同意を得たうえで掲載しています。

◆東京都作業療法士会 事務局

〒160-0022 東京都新宿区新宿5-4-1 新宿Qフラットビル501号室

TEL：03-6380-4681 FAX：03-6380-4684

◆東京都作業療法士会ホームページ <http://tokyo-ot.com/>

◆東京都作業療法士会ホームページ窓口 postmaster@tokyo-ot.com

※お詫びとお願い：現在事務局での電話対応が困難な状況にあります。

ご質問・ご連絡は、FAX・メールにてお願いいたします。